

2020年3月31日

Vol
134

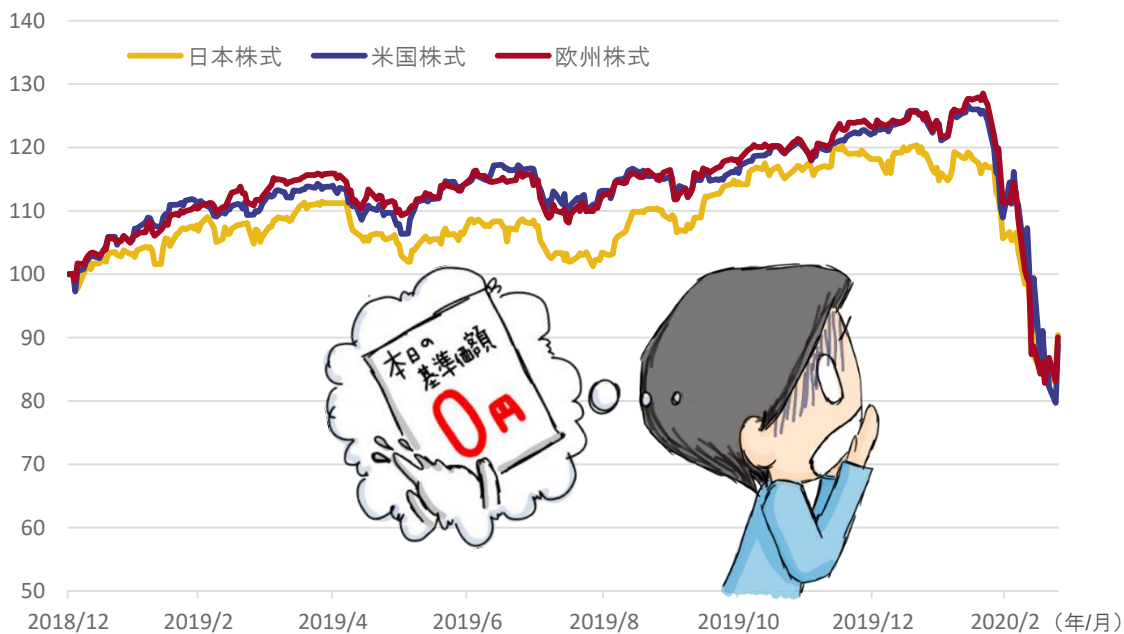
基準価額が0円になってしまうことはあるの？ あらためて基準価額について押さえておきましょう

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、世界の金融市場が混乱しています。とくに2月の中頃からは、主要国の代表的な株価指数にも短期間で大きな下落が見られます。

当社の投資信託でも、基準価額が大きく下落しているものも少なくありません。なかには1,000円を下回っているものもあり、コールセンターには「このままでは基準価額が0円になってしまうのではないか」というご心配の声が届くことがあります。

そこで今回は、あらためて基準価額について押さえて頂きたいと思います。

■日米欧の株価指数の推移



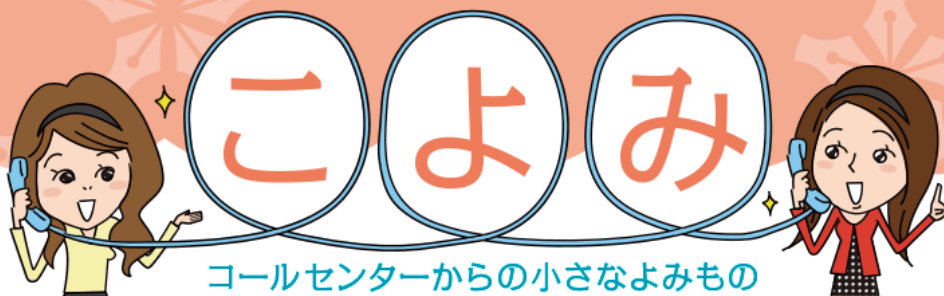
期間：2018/12/31～2020/3/24（日次）、グラフ起点を100として指数化

日本株式：日経平均株価、米国株式：NYダウ30種、欧州株式：STOXX欧州600指数（すべて現地通貨ベース）

出所：信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目録見書）をご覧ください。

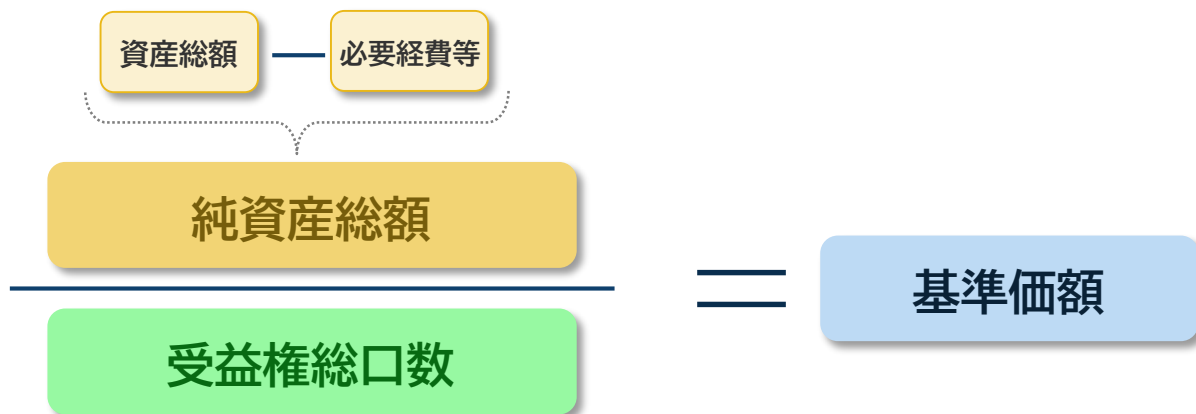


そもそも、基準価額ってなに？

基準価額は、保有資産の合計(「純資産総額」という)÷全保有者の口数の合計(「受益権総口数」という)で算出されます。

組入れている有価証券(株式や債券、REITなど)をすべて時価評価し、配当金や利子を足し合わせたものを「資産総額」といいます。海外の有価証券であれば、ルールに基づいて日本円に換算します。この「資産総額」から信託報酬などを差し引いたものを「純資産総額」といいます。

そして、「純資産総額」を、全保有者の口数を合計した「受益権総口数」で割ったものが、基準価額です。



※上記はイメージです



基準価額はなぜ変動するの？

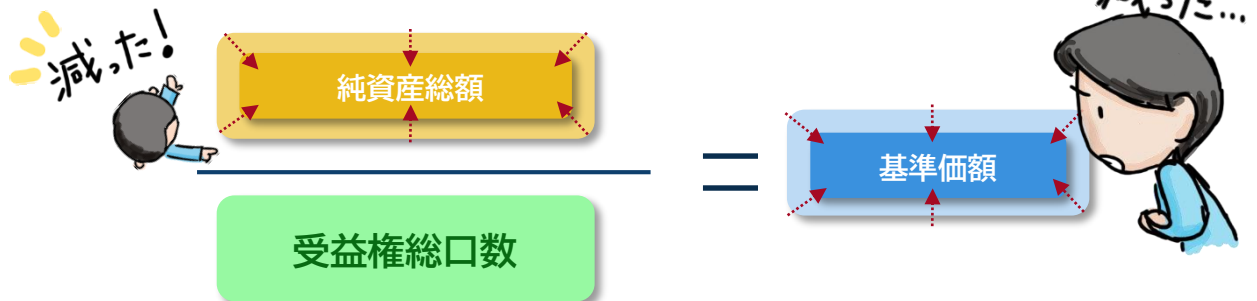
「純資産総額」が増える(減る)と、基準価額は上昇(下落)します。

その「純資産総額」は、2つの要因で変動します。

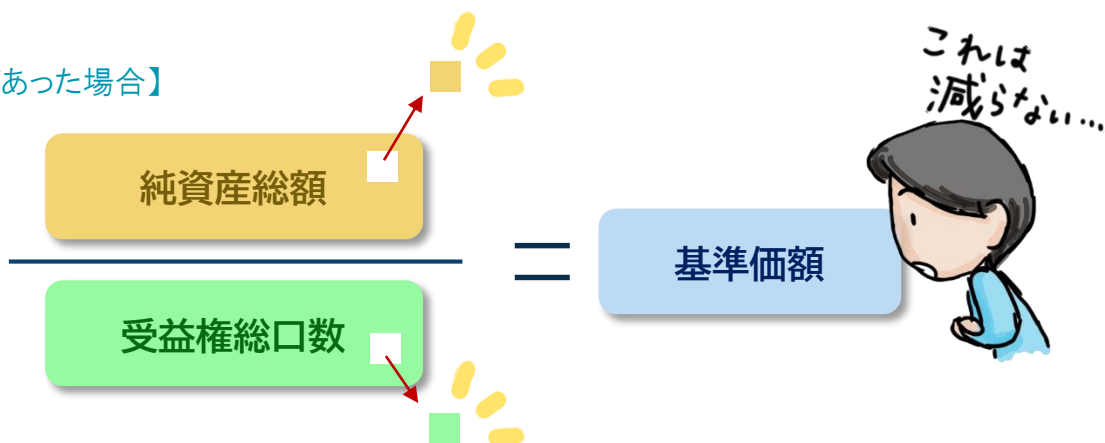
1つは、組入れている有価証券が変動したときです。組入れている有価証券が上昇(下落)すると、純資産総額が増え(減り)ます。この場合、基準価額も上昇(下落)します。

もう1つは、買付(解約)があったときです。ただし、買付(解約)があれば、それに見合う受益権総口数も増加(減少)しますから、この場合は基準価額は変化しません。

【組入れている有価証券が下落した場合】



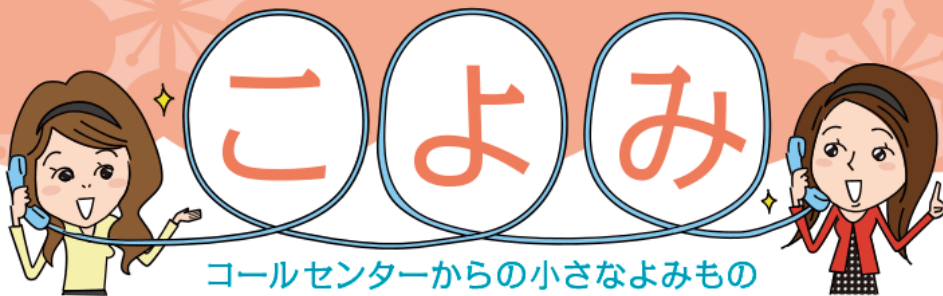
【解約があった場合】



※上記はイメージです

*簡易的な説明をしています。投資対象の変動率と投信の変動率とは、その投信の投資目的やインデックスファンドかどうかなどの商品性の他、様々な理由により異なります。また、投資金額がいくらになっているかどうかについては、税金や手数料等のコストを考慮していません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



基準価額についてよくあるご質問

「基準価額が0になってしまうことはあるの？」

一般的に投資信託は、複数の銘柄に分散して投資しています。また、組入れている有価証券は常に同じというわけでもありません。ですから、「すべての」有価証券が0になり、基準価額が0円になるという可能性は非常に低いと考えられます。

「株価指数が大きく下がれば、基準価額が低い投資信託ほど不利なのでは？」

たとえば、ある株価指数と連動する基準価額500円の投資信託があるとしましょう。株価指数が1,000円も下がると0円になってしまうのでは、と心配される方もいるようです。しかし大切なのは、1,000円という「額」ではなく、前日と比べて何%上下したのかという「率」です。仮にその指数の1,000円の下落が前日比-5%だったとすると、基準価額500円の投資信託の下落は500円×5%で25円程度と考えられます*。「何百円も下がって0円に近づくのでは!？」という心配からすると、意外と小さい金額と感じるのではないのでしょうか。大切なのは、その基準価額に対する「変化率」なのです。基準価額の水準が低ければ低いほど、そのことを思い出す必要があります。

* 指数に完全に連動し、コスト等を無視とした場合

組入れている有価証券がこれから上がるかどうか

基準価額の水準だけを見て一喜一憂するのではなく、経済情勢などに目を配りつつ、組入れられている有価証券について適切な判断に努めることが重要です。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

